

平成17年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(市町村事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町村名	再評価の理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を巡る社会経済状況等の動向	費用便益分析結果 コスト削減の可能性 代替案の検討等	今後の事業の見通し	委員会意見等	
						採択年	総事業費	進捗率					事業進捗内容
							工事費	進捗率					
目標年	用地費	進捗率											
地域水産物供給基盤整備事業	106	相差	鳥羽市		<p>【全体事業概要】 外郭施設 西防波堤 L=30m 沖防波堤 L=120m 護岸 L=60m 水域施設 - 3m泊地 A=2,800m² 係留施設 - 3m岸壁 L=60m 船揚場 L=30m 輸送施設 道路 L=455m 漁港施設用地 用地 A = 2,400m²</p>	H6	1,438	82.0%	外郭施設 西防波堤L=30m 沖防波堤L=87m 護岸L=60m 水域施設 - 3m泊地 A=2,800m ² 係留施設 - 3m岸壁L=60m 輸送施設 道路L=455m 漁港施設用地 用地A=2,400m ²	【全体計画の変更】 H14年度漁港法の改正に伴い事業費の見直しをおこなったところ総事業費1,678百万円から1,438百万円に全体計画を変更しました。	費用便益比 B/C = 1.4 コスト削減 用地埋立土に、床掘・浚渫残土を流用しました。 用地埋立土に、他事業で発生した残土を流用しました。 舗装材・基礎材に再生材を使用しました。	平成6年度に事業着手し現時点での進捗率は82%となっています。 H20年度には全体計画を完了する見込みです。	審査を行った結果、総合評価が極めて主観的であり、現計画の妥当性を判断できなかった。したがって、次の点を説明できる資料の提出を待って再審議とする。 一、複数のケース図を重ね合わせるなど、わかりやすい現計画と代替案の比較 一、それぞれの案の費用便益分析 一、実態調査を踏まえた荒天時の沖防波堤にかかる通行漁船シミュレーション
						H20	1,438	82.0%					
					<p>【事業目的】 荒天時における漁船の避難回数が減少するよう港内の静穏度を高めます。 漁船が安全に陸揚、準備、休憩できる港内泊地及び岸壁を確保します。 漁業作業のための用地を確保します。</p>								

平成17年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(市町村事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町村名	再評価理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を巡る社会経済状況等の動向	費用便益分析結果 コスト削減の可能性 代替案の検討等	今後の事業の見通し	委員会意見等	
						採択年	総事業費	進捗率					事業進捗内容
							工事費	進捗率					
目標年	用地費	進捗率											
河川事業	112	準用河川 朝明新川 総合流域防災事業	四日市市		<p>【全体事業概要】 全体事業費 11.7億円 計画延長 L=900m 築堤 1,170m 護岸 870m</p>	H3	1,171	51.8%	<p>【実施事業内容】 築堤 190m 掘削 4,900m3 護岸 190m 道路橋 1橋 堰 1基 水道管 1箇所 用地買収 14,142m2 物件補償 1式 【以降実施内容】 築堤 980m 掘削 27,600m3 護岸 680m 床固工 1基 道路橋 2橋 堰 1基 用地買収 458m2</p>	<p>全体計画の変更 事業環境の変化 財政状況の変化</p>	<p>B/C = 4.7 現地発生土の有効 利用や施設の見直し 等、更なるコスト削減 に努めます。</p>	<p>厳しい財政状況であるものの、随時、改修をすすめ治水安全度の向上を図ります。</p>	<p>審査を行った結果、事業継続の妥当性が認められたことから事業継続を了承する。 ただし、河川事業については、従前より土地利用計画と河川整備計画との整合が議論されることである。したがって、今後は、流域内の流出係数に影響を与え、理由が発現される場合は、積極的な調整に努められたい。 また、投資効果の観点から、多自然型工法を画一的に適用するのではなく、工法の効果が高いと見込まれる箇所を選定するとともに、その成果を確認しつつ実施するよう求めるものである。</p>
						H25	531	64.2%	<p>【事業目的】 氾濫による家屋や事業所、水田の浸水被害を防止するため、川を拡げ、護岸等を整備する河川改修事業を実施しております。</p>				

平成17年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(市町村事業)

(単位:百万円)

事業名	区	箇所名	市町村名	再評価理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を巡る社会経済状況等の動向	費用便益分析結果 コスト削減の可能性 代替案の検討等	今後の事業の見通し	委員会意見等	
						採択年	総事業費	進捗率					事業進捗内容
							工事費	進捗率					
目標年	用地費	進捗率											
土地区画整理事業	113	津駅前北部地区	津市		<p>【全体事業概要】 都市計画道路4路線 L=961m 区画道路 L=2,139m 特殊道路 L=195m 排水路 L=32m 公園2箇所 A=3,500m² 建物移転 232戸 減価補償 A=7,900m² 下水道(雨水) L=3,310m</p>	H8	15,576	31.5%	<p>区画道路 L=98m 建物移転 100戸 減価補償 A=7,900m² 下水道(雨水) L=434m</p>	<p>【全体計画の変更】 当初は、津駅西地区との一体性を高めるため跨線道路橋計画と整合を図るような道路計画を行っていましたが、事業計画認可後、地元住民から安全上、既存踏切の幅幅による平面交差にしてほしいとの要望があり、鉄道管理者との協議の結果、跨線道路橋計画が見直されました。その後、換地設計に係る地元住民との協議に時間を要したため、仮換地指定が3年遅れましたので施行期間を4ヶ年延伸しました。</p>	<p>土地区画整理事業 費用便益比 B/C = 1.03 街路事業 費用便益比 B/C = 1.98 コスト削減 平成15年度より、移転対象者には仮設住宅への入居を提案しており、多数の入居希望を頂いております。これにより、平成15年度から平成21年度の移転対象者に支払うアパート等の仮住居費を削減することが可能となっております。路盤工に再生資源として再生クラッシュランを使用し、約700万円のコスト削減となりました。</p>	<p>仮換地指定後すぐに建物移転を行い、公共施設整備の準備を進めています。建物移転は平成21年度、事業全体は平成22年年度に完了予定です。</p>	<p>審査を行った結果、事業継続を了承する。ただし、本事業は、津駅前にふさわしい商業業務拠点と都心居住促進を目的としている。この目的を実現できるように良好な市街化の誘導に取り組むことを強く希望するものである。また、本事業地区にある旧参宮街道には、津市の個性づくりに繋がる歴史的環境が残っていることから、2期工区については、歴史地域資産に配慮した「文化のかおり高い街」の実現に繋がる区画整理の設計に取り組まれたい。</p>
						H22	-	-					

平成17年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(市町村事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町村名	再評価の理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を進める社会経済状況等の動向	費用便益分析結果 コスト削減の可能性 代替案の検討等	今後の事業の見通し	委員会意見等	
						採択年	総事業費	進捗率					事業進捗内容
							工事費	進捗率					
目標年	用地費	進捗率											
					[全体事業概要]								
					[事業目的]								

注:再評価理由

- 事業採択後5年間を経過した時点で未着工の事業
- 事業採択後一定期間を経過した時点で継続中の事業
- 再評価実施後一定期間が経過している事業
- 社会経済情勢の急激な変化等により再評価を実施する必要が生じた事業

平成17年度三重県公共事業事後評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町村名	全体事業概要と目的	採択年度	完了年度		総事業費	事業の効果	事業の環境面への配慮及び事業による環境の変化	事業を巡る社会経済情勢等の変化	県民の意見	今後の課題等	委員会意見等
						当初	最終							
ため池等整備事業	502	馬の頭溜地区	桑名市	<p>[全体事業概要]</p> <p>馬の頭溜 堤体改修L=65.0m 取水施設 1式 洪水吐 1式</p> <p>馬の頭新溜 堤体改修L=103.4m 取水施設 1式 洪水吐 1式</p>	H7		H10	193	<p>平成7年度時には効果算定はしていない。平成17年度時点では2.28</p> <p>平成12年度の東海豪雨時においては下流受益内で災害はほとんど発生しなかった。また、維持管理は地区関係者により適切に管理されている。</p>	<p>事業実施時においては環境面に対して特に調査はしていないものの、工事実施にあたり池内の在来魚類などは保護していた。近年においてはブラックバス等の外来種が池に放流され、これらの駆除も地域住民により行われている。</p>	<p>池周辺そのものは山沿いの谷地田に位置していることから、情勢変化はあまり見られない。池受益地においてほ場整備が実施され、受益内の優良な農地も確保されている。</p>	<p>500戸を対象にアンケートを実施したが、回収できたのは農業者の100戸と非農家の協力が得られなかった。農業面で用水がよくなったとの意見が半数。景観についてもよくなったとの意見を半数程度もらっている。</p>	<p>事業実施に対する環境配慮をいただきたい。アンケートの回収等その実施方法について、より広く県民の意見が反映できるような工夫が必要である。環境部等と連携し、地域住民とともに外来種の駆除を実施し、生態系の保全を図りたい。</p>	<p>審査を行った結果、事後評価の妥当性が認められたことから課題に対する対応方針を了承する。</p>
							H11	215						
				<p>[事業目的]</p> <p>堤体、取水施設の老朽化、洪水吐の断面不足等による決壊その他の事故による農地農業用施設及び人家への災害を未然に防止することを目的に改修する。</p>	-	-	-							

平成17年度三重県公共事業事後評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町村名	全体事業概要と目的	採択年度	完了年度		事業の効果	事業の環境面への配慮及び事業による環境の変化	事業を巡る社会経済情勢等の変化	県民の意見	今後の課題等	委員会意見等
						当初	当初						
						最 終	最 終						
土地改良総合整備事業	503	嬉野西部地区	松阪市	[全体事業概要] 農業用排水整備 L=18,636m 農道整備 L=22,931m 暗渠排水 A=21.0ha	H5	H11	676	排水路整備や暗渠排水の実施により水田の汎用化が図られ畑作物の作付、生産調整の集団化が図られた。計画当初(H5) B/C=1.13 計画変更(H9) B/C=1.02 完了後(H16) B/C=1.02	平成17年7月に実施した調査の結果、地区内水路においてオイカワ、ヨシノボリ、シマドジョウ等の棲息を確認。アンケートにおいても「変わらない」との意見が多い	一志嬉野ICの開設等により工場などの進出が進むと共に、中川駅周辺を中心に住宅が増加し、混住化が進んでいる。本地区受益地内では生産調整も定着化し、安定した農業が営まれている。	915戸に対しアンケートを行い、69%の回収率があった。事業の認知度は高く、転作及び農地の集積が進んでいることがアンケート結果からわかるものである。	事業計画に当たり事前調査を詳細に実施し事業費事業量を的確に把握し事業効果の早期発言に努めたい。事前に環境調査を実施し、その保全に努めていきたい。農家の営農利用と非農家の日常生活利用との両面で事業に対する期待があるため双方の違憲を事業に反映させていきたい。	審査を行った結果、事後評価の妥当性が認められたことから課題に対する対応方針を了承する。ただし、今後の事後評価に当たっては、当初の営農計画と現状を比較する事後評価の視点を加えるよう望むものである。
						H11	887						
				[事業目的] 排水路の底張り、法面保護、暗渠排水、農道の舗装を行うことにより、用排水機能の強化、畑作や転作の定着化、作物の品質向上や走行経費を節減により安定した農業経営を図る。	-	-	-						

平成17年度三重県公共事業事後評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町村名	全体事業概要と目的	採択年度	完了年度		事業の効果	事業の環境面への配慮及び事業による環境の変化	事業を巡る社会経済情勢等の変化	県民の意見	今後の課題等	委員会意見等
						当初	当初						
						最終	最終						
道路事業	504	一般国道368号上野名張バイパス	名張市～伊賀市	<p>【全体事業概要】</p> <p>延長 9,390m 幅員 13.0(20.0)m 橋梁工 4橋</p>	S63			<p>【費用対便益分析】 B/C=17.0</p> <p>バイパス開通により、旧道の交通量は2万1千(台/日)から6千(台/日)へ減少するとともに、バイパス開通後の交通量は新・旧道合わせて2万4千(台/日)に大幅増加した。また、旧道の交通量がバイパスに転換したことにより、旧道の沿道環境が向上した。名張市桔梗が丘近隣の沿道には、住宅団地・工業団地が整備され、地域の社会経済の発展、街づくりに大きく寄与している。</p>	<p>当上野名張バイパスは、丘陵地を進むルートであるため、開削して出来た切土法面は、緑化し環境面に配慮している。</p>	<p>名張市の人口が4万4千人(S55)から8万3千人(H15)へと倍増、また、旧上野市及び名張市の製造品出荷額等が2千億円(S55)から5千6百億円(H15)へと2.8倍増し、社会が大きく発展するとともに、当該区間の交通量も6千8百(台/日)(S53)から2万4千(台/日)(H12)へと約3倍増となっている。</p>	<p>アンケートの結果では、約8割の方が満足で、その理由は「渋滞の緩和」、「走行時間短縮」、「利便性の向上」、また約1割の方が不満で、その理由は「依然として渋滞発生」、「案内標識が足りない」、「完成までに2年間を要した」となった。旧道沿線住民の50%以上の方がバイパス整備が「旧道の渋滞減少」、「住環境の改善」、「旧道の安全な走行」に寄与したと感じている。</p>	<p>国道368号上野名張バイパスの交通量の増加に対応した4車線整備の推進 適切な道路照明の設置 適切な案内標識の設置 道路事業への課題 交通量の増加等への確に対応した道路整備計画の立案及び事業効果の早期発現に向けた事業実施</p>	<p>審査を行った結果、事後評価の妥当性が認められたことから課題に対する対応方針を了承する。 ただし、今後の事後評価に当たっては、周辺住民もアンケート対象者にされたい。また、道路の4車線計画に替わる3車線の効率的な運用も検討されたい。</p>

平成17年度三重県公共事業事後評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町村名	全体事業概要と目的	採択年度	完了年度		事業の効果	事業の環境面への配慮及び事業による環境の変化	事業を巡る社会経済情勢等の変化	県民の意見	今後の課題等	委員会意見等	
						当初	当初							
						最 終	最 終							
滝川生活貯水池建設事業	505	伊賀市高山	伊賀市	<p>【全体事業概要】 重力式コンクリートダム ・堤高29.8m ・堤長120.0m ・堤体積30,000m³ ・総貯水量282,000m³</p>	H2	H10	5,000	<p>・費用対効果 総便益: 13,817.8百万円 総費用: 8,548.0百万円 費用対効果 13,817.8 / 8,548.0 = 1.62</p>	<p>・ダム貯水池から水温や濁りを考慮した放流ができるよう“多管式選択取水設備”を設置し、環境の保全に配慮しました。</p>	<p>・比自岐川流域では開発等は行われず、滝川ダム建設前後で土地利用の変化はほとんどみられません。</p>	<p>・滝川ダムの各効果について、住民の方々の満足度が高いことが分かりました。</p>	<p>・ダム周辺へのゴミ投棄については、看板の設置や、パトロール強化など、ゴミ投棄抑制対策を推進するとともに、周辺道路の管理者や地域住民とも連携しながら、今後も清掃等の適切な管理に努めます。</p>	<p>・ダム周辺へのゴミ投棄については、事後評価の妥当性が認められたことから課題に対する対応方針を了承する。</p>	<p>・審査を行った結果、事後評価の妥当性が認められたことから課題に対する対応方針を了承する。</p>
						H12	7,030	<p>・ダムの洪水調節により、下流において河川水位の低減効果がありました。</p> <p>・ダムから維持放流により比自岐川の河川水を補給し、河川環境の悪化を軽減しました。</p> <p>・水道が未整備であった伊賀市高山、比自岐、摺見、岡波地区に水道が整備されました。これにより、消火栓や、水洗トイレ、集落排水処理施設の整備が進みました。</p>						
				<p>【事業目的】 ・ダム貯水池で洪水調節を行い、比自岐川流域の洪水被害を軽減します。</p> <p>・ダムからの維持放流により、比自岐川の河川環境を保全します。</p> <p>・伊賀市高山、比自岐、摺見、岡波地区に水道用水を供給します。</p>	-	-	-							

平成17年度三重県公共事業事後評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町村名	全体事業概要と目的	採択年度	完了年度		事業の効果	事業の環境面への配慮及び事業による環境の変化	事業を巡る社会経済情勢等の変化	県民の意見	今後の課題等	委員会意見等
						当初	最終						
砂防事業	506	観音谷川	菟野町	<p>【全体事業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・砂防堰堤 2基 ・緑の砂防ゾーン 7500m² スリット付き横工 3基 床固工 2基 帯工 2基 低水路工 17.3m 導流堤 3.2m 	H4	H12	700	<p>【計画時の事業目的と達成状況の評価】</p> <p>計画流出土砂量 34,600m³に対して整備率100% (砂防堰堤: 24580m³, 砂防ゾーン: 10,200m³)。保全対象(当初): 人家8戸、宿泊施設2棟、キャンプ場、道路700m。達成状況: 保全人家戸数には変化なし。キャンプ場および宿泊施設が現在は営業しておらず、保全対象が減。</p> <p>【当初の効果と完了後の効果の比較結果】</p> <p>費用対効果の分析 当初: 事業評価は実施していない 事後: B/C = 1.15</p> <p>【上記以外の定量化(金額換算)できない他の効果】</p> <p>樹林帯により、自然環境への影響を最小限に、コンクリート堰堤による圧迫感をなくし、景観への影響を小さく。</p> <p>【時間の効果】</p> <p>植生が発達したことにより、土石流に対する流出抑制効果が増大。</p> <p>【事業コストの縮減、代替案による事業費縮減効果】</p> <p>現地発生石材を利用した施設整備を実施、再生材を利用。</p>	<p>【事業実施において環境に配慮した事項】</p> <p>樹林帯の持つ土砂の流出抑制効果に着目し、「緑」を残した砂防整備。</p> <p>現地発生石材を利用し、周辺の景観に配慮した整備。</p> <p>【事業実施による周辺環境の変化の比較・検証】</p> <p>植生が発達したことにより、緑が増加し周辺景観への調和が進んだ。</p>	<p>【社会経済情勢の変化】</p> <p>砂防堰堤等のハード整備において、環境や景観に配慮することが求められている。</p> <p>【事業実施による計画時と完了時の社会経済情勢の変化】</p> <p>近年、異常気象による土石災害が増加。ハード対策に加えて警戒避難体制の整備等のソフト対策が重要になってきている。</p> <p>住民の高齢化が進み確かな避難行動が困難になることが懸念。</p> <p>【社会経済情勢の変化に対応した事業対応】</p> <p>樹林帯の整備により、周辺環境との調和を図った。</p> <p>ハザードマップの作成、土石災害情報の提供等ソフト対策を実施。(別途事業)</p>	<p>【県民の意見の徴収方法】</p> <p>対象範囲: 菟野町杉谷地区 他2地区</p> <p>対象の人: 住民</p> <p>調査方法: アンケート方式</p> <p>調査数465 有効回答数401(回収率86%)</p> <p>【県民の意見の内容】</p> <p>砂防樹林帯の自然環境面での満足度は「満足」、「やや満足」が78%と高い。</p> <p>「土石流危険渓流が近くにあることを知らない」が約4割。</p> <p>今後の砂防事業のあり方について、「ソフト対策を優先」と答えた人は7%、「ハード対策と併せてソフト対策を並行して行うべき」と考える人と併せると全体の約8割。住民のソフト対策への関心が非常に高い。</p>	<p>【県民の意見からの課題と対応方針】</p> <p>ハード対策: 今回の対象地区は、過去に土石災害が発生し砂防関係事業が多く実施されている地域。砂防事業全般について理解を得られている。砂防樹林帯の整備についても概ね好意的。一部には自然環境への影響を懸念する意見があり、今後も環境に十分配慮する必要がある。ソフト対策: 今回の調査では、土石流危険箇所がどこにあるかを知らない人が約4割。土石災害危険箇所の周知が行き届いていない結果となった。警戒避難においては最終的には個人の判断に委ねられるため、土石災害危険箇所に住む県民の防災意識の向上を図る必要がある。パンフレットの配布などの啓発活動を実施していく必要がある。</p> <p>【今後の事業に反映すべき課題と対応方針】</p> <p>ハード対策には膨大な時間と費用がかかる。ソフト対策との連携が重要。ハード対策…重点的、計画的な整備が必要。ソフト対策…土石災害情報相互通報システム、気象庁との連携、土石災害防除法による特別警戒区域の指定等を行う。今後の砂防事業、ハード・ソフトの連携した総合的な土石災害対策に取り組んでいく。</p>	<p>審査を行った結果、課題に対する対応方針を了承する。</p> <p>ただし、事後評価としては、次の点について不十分であると考えられた。</p> <p>一、この事業の着手に至った経緯と、その当時の現況が事業実施後、どのように変化したのか。</p> <p>一、事業着手当時に予想した便益(保全対象)に対して、現時点でそれはどのように変化したのか。</p> <p>一、事業着手時における事業内容の詳細な計画目的と、現時点における当該目的の達成状況はどうであったか。</p> <p>したがって、今後の事後評価に当たっては、これらの評価を実施されたい。</p> <p>また、主たる効果が発現されていない事業については、事後評価の視点を明確にするよう整理されたい。</p>
					-	-	-	-	-	-	-	-	-

平成17年度三重県公共事業事後評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町村名	全体事業概要と目的	採択年度	完了年度		事業の効果	事業の環境面への配慮及び事業による環境の変化	事業を巡る社会経済情勢等の変化	県民の意見	今後の課題等	委員会意見等
						当初	当初						
						最終	最終						
海岸事業	507	三木里港海岸(名柄地区)	尾鷲市	<p>【全体事業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・整備延長 560m ・人工海浜工 32,170m³ ・突堤工 3基 ・護岸改良 560m ・遊歩道 11,000m² ・トイレ 2箇所 ・更衣室 1箇所 ・駐車場 1箇所 	H3	H12	3,236	<p>【防護面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三木里港海岸整備前は、高波浪時に越波による被害が度々生じていたが、人工海浜・緩傾斜護岸等の整備後では、これら施設整備による消波効果により、越波被害が生じなくなった。 ・平成12年度の事業完了後では、平成13～16年に数回の台風が、上陸ないし接近したものの、当海岸では海岸保全施設及び背後の人家等に被害は発生せず、防護機能を発揮することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・養浜の施工にあたっては、濁り拡散防止フェンスを海底に着底させて濁り対策を行い、水質調査(透明度および濁度、水温、塩分、密度)を4地点(濁り拡散防止フェンス内1ヶ所および工事施工前面海域3地点)にて行った結果、工事による影響は無かった。 ・三重県環境森林部が実施している、シーズン前の海水浴場水質調査結果において、工事期間中及び工事終了後ともに海水浴に適した水質である「A評価」以上であり、変化なく良好であった。 	<p>【防護対象の変化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三木里港海岸背後は依然として人家が密集しており、防護の必要性に変化はない。 ・世帯数の変化(H2年476世帯 H12年445世帯(6.5%) H16年467世帯(H12比+4.9%)) 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成17年7～8月に周辺住民(300名)及び海岸利用者(200名)に対してアンケートを実施。 (回答数:周辺住民254 回答率85%、海岸利用者135 回答率68%) 【安全面に対する満足度】 ・安心(18%)やや安心(18%)普通(42%)となり、普通以上の回答が、78%に達している。 【利用面に対する満足度(海岸利用者)】 ・満足(30%)やや満足(46%)普通(21%)となり、普通以上の回答が、97%に達している。 【利用面に対する満足度(周辺住民)】 ・満足(16%)やや満足(13%)普通(42%)となり、普通以上の回答が、71%に達している。 【マイナス意見】 ・計画に住民の意見をもっと反映すべき。 ・強風時に背後の民家に飛砂がある。 ・事業費が高額。 	<p>【事業実施上の課題・問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業着手の平成3年度当時は、地元の関係者との間で計画・施工方法・施工時期・景観等に関する十分な意見調整を図る仕組みが確立していなかった。 ・強風時に背後の民家に飛砂がある。 ・事業費が高額である。 	<p>審査を行った結果、課題に対する対応方針を了承する。ただし、アンケート結果から得た数値を、主観的に評価しているように思えた。したがって、今後の事後評価に当たっては、数値については客観的に評価するよう望むものである。</p>
					H12	2,860	<p>【利用状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当海岸は、尾鷲市が海水浴場として指定しており、平成16年度は約10,450人の海水浴客が利用した。 ・当海岸のイベントとして7月にビーチボール大会、8月にシーカヤック大会、花火大会、10月には全日本学生釣り選手権大会が開催され賑わっている。 ・整備した海岸施設は世界遺産熊野古道の休憩施設としても利用されている。 	<p>【利用状況の変化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元の住民が遊歩道を散策路として利用し憩いの場となっている。 ・子供達も安心して遊べる場として利用している。 ・植樹の充実や、海浜の美化活動が地元のボランティアにより自発的に行われるようになり、海岸美化活動が定着してきている。 ・熊野尾鷲道路整備が進められており、最寄りの三木里インターを利用することで所要時間が大幅に短縮され、海岸利用の促進が期待できる。 ・整備した海岸施設は世界遺産熊野古道の休憩施設としても利用されている。 	<p>【利用状況の変化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元の住民が遊歩道を散策路として利用し憩いの場となっている。 ・子供達も安心して遊べる場として利用している。 ・植樹の充実や、海浜の美化活動が地元のボランティアにより自発的に行われるようになり、海岸美化活動が定着してきている。 ・熊野尾鷲道路整備が進められており、最寄りの三木里インターを利用することで所要時間が大幅に短縮され、海岸利用の促進が期待できる。 ・整備した海岸施設は世界遺産熊野古道の休憩施設としても利用されている。 	<p>【今後実施する事業への留意事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業の計画段階から管理に至るまで関係住民等の参画を得て、意見を反映するとともに、工事段階においても地域の要請を反映させて行く。 ・事業の計画段階から飛砂対策について、関係住民等の意見を反映し検討を行う。 ・完了後の適切な維持管理に努めるとともに、今後の施設整備にあたっては、コストを意識して、整備費の縮減や維持管理の容易な施設整備に努めて行く。 			